

報道関係各位

2022年9月

## 上野アーティストプロジェクト 2022

# 「美をつむぐ源氏物語—めぐり逢ひける えには深しな—」

(同時開催) コレクション展「源氏物語と江戸文化」

会期：2022年11月19日(土)～2023年1月6日(金)

「上野アーティストプロジェクト」は、「公募展のふるさと」とも称される東京都美術館の歴史の継承と未来への発展を図るために、2017年より開始したシリーズです。その第6弾となる本展は、「源氏物語」がテーマです。

平安時代中期に紫式部が執筆した源氏物語には、四季折々の美しい情景とともに、多数の登場人物が魅力的に描かれています。主人公・光源氏を中心に描かれる人間模様は、現代の私たちにも通じるものがあります。読者は登場人物と自分とを重ね合わせ、物語に感情移入することができるからこそ、約1000年の間変わらず読み継がれてきたのではないのでしょうか。そして、長い間広く親しまれてきた中で、美術工芸や芸能などにも広く影響をもたらし、時代や文化を超えて人びとを魅了してきました。

本展では、源氏物語が持つ多様性をもとに、書、ガラス工芸、染色、絵画など7名の多彩なジャンルの作家をご紹介します。現代作家のバラエティに富んだ作品にひろがる源氏物語の世界や、現代まで紡がれてきた美意識をご堪能ください。

副題は、源氏物語第14帖「澁標」のなかで、光源氏が明石の君に宛てた「みをつくし 恋ふるしるしに ここまでもめぐり逢ひける えには深しな」という和歌から取りました。この和歌は恋文ですが、いつの時代も「えに(縁)」は大切にされてきました。そして人との出会いはもちろん、美術館で作品とめぐり逢うことも、ひとつの縁と言えるのではないのでしょうか。本展が、人や社会とのつながり方が変化しているコロナ禍において、私たちの生活を見つめ直す機会となれば幸いです。

### ◆ 出品作家 (50音順)

- ・青木寿恵 (1926—2010)
- ・石踊達哉 (1945—)
- ・高木厚人 (1953—/臨池会)
- ・鷹野理芳 (1959—/日本書道美術院)
- ・玉田恭子 (日本ガラス工芸協会)
- ・守屋多々志 (1912—2003/日本美術院)
- ・渡邊裕公 (1950—/光風会)



上野アーティストプロジェクト 2022  
Artist Project 2022

# 美をつむぐ

## 源氏物語

—めぐり逢ひける えには深しな—  
"Beauty Nurtured by The Tale of Genji —It is Fate that Brings Us Together"

2022年11月19日(土)  
— 2023年1月6日(金)

東京都美術館 ギャラリーA・C

出品作家 | 9:30—17:30 (入場は開演の30分前まで)  
観覧料 | 11月25日(土)、12月2日(日)、9日(金)、16日(土)、23日(日)は 9:30—20:30 (入場は開演の30分前まで)

休 業 日 | 11月21日(月)、12月6日(月)、19日(月)、29日(木) — 2023年1月3日(火)

観 覧 料 | 一般 500円 / 65歳以上 300円 / 学生以下 無料

主催 | 公益財団法人東京都文化財団 東京都美術館

同時開催  
源氏物語と江戸文化  
東京都美術館 ギャラリーB  
観覧料  
11月25日(土) 9:30—20:30 / 12月2日(日) 9:30—20:30 / 12月9日(金) 9:30—20:30 / 12月16日(土) 9:30—20:30 / 12月23日(日) 9:30—20:30

東京都美術館  
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

AFF2

## ◆ 展覧会のみどころ

### 1 新感覚の源氏物語展

絵巻や屏風などに描かれた絵画だけでなく、書、ガラス工芸、染色という多彩な手法で表現した作品を通して、新たな視点から源氏物語の世界を体感していただけます。

### 2 源氏物語をわかりやすく紹介

源氏物語は、全 54 帖と長編であることに加え、登場人物が多いことから読破するにはとても時間がかかります。本展では、作品を鑑賞する手引きとして、物語のあらすじや人物関係をわかりやすくご紹介します。

### 3 源氏物語がつなぐ美の饗宴

これまで 5 回開催してきた上野アーティストプロジェクトでは、書と美術を隔年で取り上げてきましたが、本年はその 2 つを同時に展示いたします。源氏物語をテーマとした書と美術の作品による美の饗宴に、ぜひご注目ください。

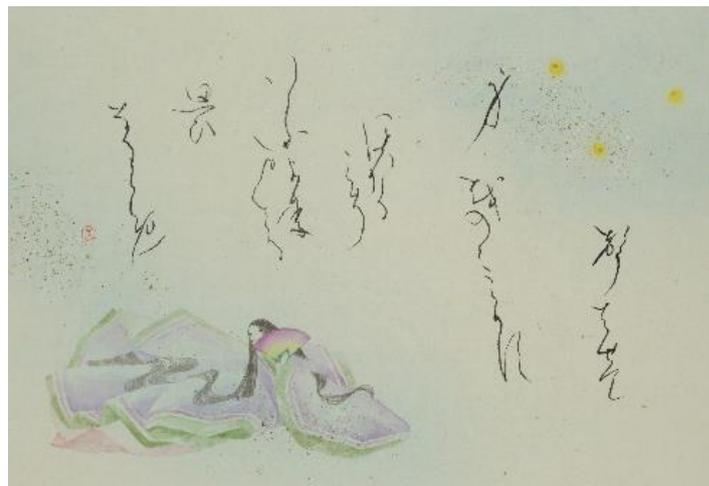
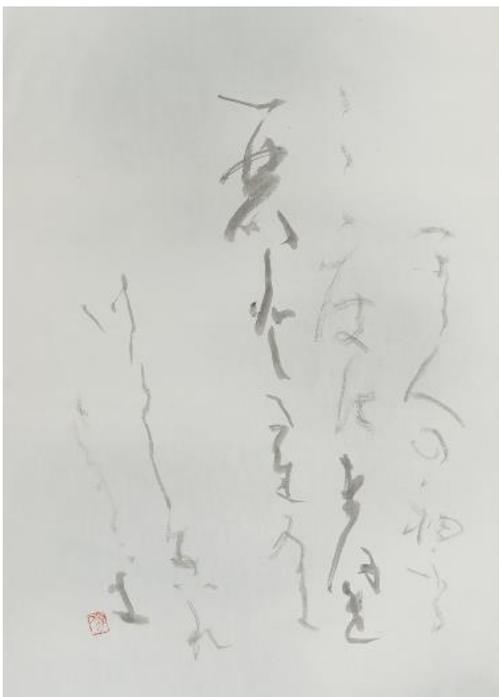
## ◆ 展覧会構成・作家紹介

### 【第 1 章 和歌をよむ】

源氏物語では、物語のなかに収められた 795 首の和歌を通して、登場人物の喜怒哀楽やその時の情景が表されています。また、書風に関する記述が数多く見られ、当時のかなに対する美意識も伺うことができます。本章では、源氏物語を「美のバイブル」と位置付け、独自の感性で和歌を解釈・表現する鷹野理芳と、洗練された空間構成と巧みに使い分けられた筆遣いによって、和歌が詠まれた情景を表現する高木厚人の作品から、源氏物語の世界を紹介します。

#### 鷹野理芳（たかの りほう／日本書道美術院）

源氏物語に時を超えても変わらない人の心を見出し、物語のなかで詠まれた和歌を書き続けています。華麗な料紙に、和歌とともに物語に登場する姫君のイメージ像を組み合わせるなど、彩り豊かな作品を制作しています。



鷹野理芳《垣間見 玉鬘「蛍の巻」より》2022 年 作家蔵

#### 高木厚人（たかぎ あつひと／臨池会）

光源氏とさまざまな女性との間で交わされる贈答歌。高木は、二人が和歌を「贈り」、その「答え」を受け取るまでの時間の流れや、それぞれの心の動きに寄り添いつつ、墨の濃淡や墨色、線の強弱を巧みに使い分け、詠み手の喜怒哀楽を表現しています。

高木厚人《ふぢつぼのゆめ》2012 年 作家蔵

## 【第2章 王朝のみやび】

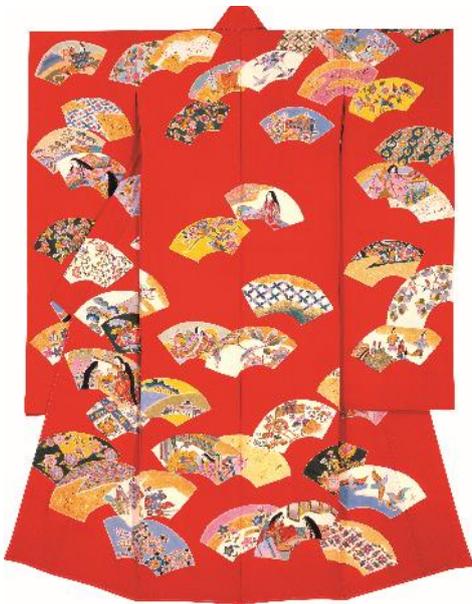
華やかな王朝の世界を描く源氏物語には、日本の美意識の根幹となる四季の移ろいや豊かな自然の風景が豊かに表現されています。のちにその様子が絵画化されたことで具体的なイメージが構築されると、さまざまなジャンルで受容され、現在もなお色あせることのない美の拠り所となっています。本章では、現代の視点からみやびな王朝の風景を表した、ガラス工芸の玉田恭子・染色の青木寿恵・絵画の石踊達哉の作品を紹介します。

### 玉田恭子（たまだ きょうこ／日本ガラス工芸協会）

独自の製法により、墨流し模様や色ガラスを板状にして何層にも襲(かさね)て形作られています。その層の内部には、「紫式部日記」や源氏物語の和歌が空間に浮遊しているかのように見えます。流れる時間、切り取られた空間、それらにまつわる情感が込められた作品は、平安時代の美的理念を表す言葉「もののあはれ」を具現化することを意識しています。



玉田恭子《紫之にき》2019年 作家蔵



### 青木寿恵（あおき すえ）

天然染料の草木染めには自然の命や太陽の香りがあると語った青木は、自然の生命力から得た感動を独自の手描き更紗(さらさ)で表現しました。更紗に代表されるエキゾチックな文様だけでなく、源氏物語を題材にした独創的な王朝の世界をモチーフとした作品には、手描きならではのあたたかみを感じられます。

青木寿恵《源氏物語》1976年頃 寿恵更紗ミュージアム蔵

### 石踊達哉（いしおどり たつや）

「花鳥風月」をテーマに、日本の美の世界を現代的に捉えた作品を制作しています。1996～97年には、瀬戸内寂聴が現代語訳した『源氏物語』（講談社）の装幀画を手掛けました。人物や定型の一場面を描かず、象徴的なモチーフのみで表した抽象的・暗示的な構図は、見る人の想像を膨らませます。



石踊達哉《真木柱》1997年 講談社蔵

### 【第3章 歴史へのまなざし】

紫式部は、単なる虚構の物語として源氏物語を執筆したのではなく、物語を通して社会の道理や歴史の重要性、人間の本質を伝えようとした。また、さまざまな分野に影響をもたらし、各時代の特色を取り入れ、受け継がれてきた源氏物語の歴史を理解することは、日本の歴史や文化を知ることにもつながると言えるのではないのでしょうか。

本章では、歴史画家の守屋多々志と、背景にカラーボールペンで歴史的な絵画を描く渡邊裕公の作品を通して、源氏物語やその歴史について考えてみたいと思います。

#### 守屋多々志（もりや ただし／日本美術院）

本の挿絵や舞台美術の仕事を通して源氏物語への関心も持ち、かねてより物語を総覧する作品を制作したいという願望を持っていた守屋は、その思いから1991年に約3年余りの歳月をかけて源氏物語の扇面画130点を完成させました。淡い色彩と繊細なタッチで、いつの時代も変わらない人間の情愛や苦悩、葛藤を表現したこの作品群から、14点を紹介します。



守屋多々志 《湾標「住吉詣」》1991年 個人蔵

#### 渡邊裕公（わたなべ ひろあき／光風会）

太さが異なるカラーボールペンを使い分け、中央に大きく描かれた人物の背景には、歴史的絵画や地図が細密に描かれています。制作過程を「原画の世界への時間旅行」と語る渡邊は、筆からカラーボールペンという現代の筆記具に道具を置き換えつつ、制作を通して当時の文化や人の営み、原画を描いた絵師の視覚を追体験するとともに、歴史の一部始終を現代に再現しようと試みています。



渡邊裕公 《千年之恋～源氏物語～》2016年 作家蔵

## ◆ 展覧会基本情報

展覧会名：上野アーティストプロジェクト 2022「美をつむぐ源氏物語—めぐり逢ひける えには深しな—」

会期：2022年11月19日(土)～2023年1月6日(金)

会場：東京都美術館 ギャラリーA・C

休室日：11月21日(月)、12月5日(月)、19日(月)、29日(木)～2023年1月3日(火)

開室時間：9:30～17:30(入室は閉室の30分前まで)

夜間開室：11月25日(金)、12月2日(金)、9日(金)、16日(金)、23日(金)は9:30～20:00  
(入室は閉室の30分前まで)

観覧料：一般 500円 / 65歳以上 300円

※学生以下は無料

※身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその付添いの方(1名まで)は無料

※学生の方、65歳以上の方、各種お手帳をお持ちの方は、証明できるものをご提示ください

※都内の小学・中学・高校生ならびにこれらに準ずる者とその引率の教員が学校教育活動として観覧するときは無料(事前申請が必要)

※特別展「展覧会 岡本太郎」(会期：2022年10月18日(火)～12月28日(水))のチケット提示にて入場無料

※事前予約なしでご覧いただけます。ただし、混雑時に入場制限を行う場合がございますのでご了承ください

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館

展覧会ウェブサイト：[https://www.tobikan.jp/exhibition/2022\\_uenoartistproject.html](https://www.tobikan.jp/exhibition/2022_uenoartistproject.html)

問い合わせ先：東京都美術館 03-3823-6921

## ◆ 展覧会関連事業

いずれも参加無料(ただし当日の本展観覧券(半券可)が必要)

### [1] 講演会：源氏物語への誘い(事前申込不要)

源氏物語の歴史や両展の見どころをご紹介します。

日時：11月20日(日) 14時～15時30分

会場：東京都美術館 講堂(定員200名)

講師：杉山哲司(東京都美術館 学芸員)

### [2] 出品作家によるアーティストトーク(事前申込不要)

①11月26日(土) 14時～15時30分 鷹野理芳・玉田恭子

②12月3日(土) 14時～15時30分 高木厚人・渡邊裕公

会場：東京都美術館 講堂(定員200名)

### [3] ダンス・ウェル からだ全体で作品をあじわうプログラム(事前申込制・10月6日(木)より受付開始)

作品をゆったりとあじわいそこから思い浮かんだイメージや感覚を、からだ全体を使って表わしてみる、ダンス・プログラムです。パーキンソン病と共に生きる方を中心に、からだにさまざまな不自由さをお持ちの方やそのご家族、子どもから大人までどなたでも参加できます。

日時：11月27日(日) ①10時30分～12時 / ②14時～15時30分

会場：東京都美術館 スタジオ(定員各回先着20名)

講師：白神ももこ(振付家、演出家、「モモンガ・コンプレックス」主宰、ダンス・ウェル講師)

\* イベントの詳細及び最新情報はウェブサイトをご確認ください。内容は都合により変更する場合がございます。

[https://www.tobikan.jp/exhibition/2022\\_uenoartistproject.html](https://www.tobikan.jp/exhibition/2022_uenoartistproject.html)

## [同時開催] コレクション展「源氏物語と江戸文化」

2017年より「上野アーティストプロジェクト」と連動するかたちで、東京都のコレクションを紹介する展覧会を開催しています。本年は東京都江戸東京博物館のコレクションより、江戸時代に新たに花開く源氏物語の文化をご紹介します。

平安時代中期に紫式部が執筆した源氏物語は、江戸時代になると印刷技術の普及などにより、貴族や武士だけでなく、大衆に浸透します。人びとに広く受け入れられたことで、本文だけでなく、挿絵や註を付けたものから手軽に内容がわかるあらすじ本まで、源氏物語にかかわる書物が多数出版されました。源氏物語を翻案した柳亭種彦著・歌川国貞（初代、のちの三代豊国）画の『<sup>りゅうていしゅんげん</sup>修紫田舎源氏』は、その代表例であり、江戸文化のなかで独自の発展を遂げ、広く人気を博しました。この他にも、人びとは意匠化した物語をハレの場や身の回りの品に取り入れるなど、さまざまな形で源氏物語を楽しみました。

本展では、絵画資料や型染に用いる型紙などを展示し、江戸文化のなかで多様な広がりを見せる源氏物語をご覧ください。

### ◆開催概要

展覧会名：コレクション展「源氏物語と江戸文化」

会期：2022年11月19日(土)～2023年1月6日(金)

会場：東京都美術館 ギャラリーB

休室日：11月21日(月)、12月5日(月)、19日(月)、29日(木)～2023年1月3日(火)

開室時間：9:30～17:30（入室は閉室の30分前まで）

夜間開室：11月25日(金)、12月2日(金)、9日(金)、16日(金)、23日(金)は  
9:30～20:00（入室は閉室の30分前まで）

観覧料：無料

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館

連携：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館

展覧会ウェブサイト：[https://www.tobikan.jp/exhibition/2022\\_collection.html](https://www.tobikan.jp/exhibition/2022_collection.html)

問い合わせ先：東京都美術館 03-3823-6921



歌川豊国（三代）《源氏四季ノ内 冬》安政5年(1858)5月  
東京都江戸東京博物館蔵



《長板中房型紙 源氏香に菊》明治～大正時代 20世紀  
東京都江戸東京博物館蔵

## ◆「美をつむぐ源氏物語」源氏物語と江戸文化」広報用画像のご提供◆

展覧会をご紹介いただける場合は、下記の画像申請用 URL より、広報用画像をご活用ください。

広報用画像申請用 URL <https://www.tobikan.jp/plate/9>

### 【注意事項】

- ・ 会期中に本展をご紹介いただける場合のみ、必要事項を記載の上、画像をダウンロードいただけます。
- ・ 作品クレジットを必ず入れてください。作品画像のトリミングや文字のせはできません。
- ・ 校正ゲラ等の確認が必要です。press@tobikan.jp に必ず掲載前にお送りください。

## ◆「美をつむぐ源氏物語」読者プレゼント（招待券 5 組 10 名様）のご提供◆

展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用の招待券をお送りいたします。

「媒体名」「掲載時期」「送付先（郵便番号・住所・会社名・担当者名）」を press@tobikan.jp にお送りください。  
発送は 11 月上旬以降を予定しております。

※コレクション展「源氏物語と江戸文化」は観覧無料につきプレゼントのご用意はございません。

## ◆報道内覧会◆

上野アーティストプロジェクト 2022「美をつむぐ源氏物語—めぐり逢ひける えには深しな—」及びコレクション展「源氏物語と江戸文化」の報道内覧会を、11 月 18 日（金）に予定しています。11 月初旬に改めてご連絡いたします。

報道関係の方からの本件に関するお問い合わせ先

東京都美術館 広報担当 山崎

E-mail : press@tobikan.jp